

質問 農地の集積等、行政の役割として万全の体制でバックアップしなければならぬと思えますが伺います。

答弁 農協等と協議しながら検討してまいります。

質問 中山間地域等直接支払制度の交付金はどう役立っているか伺います。

答弁 前年度までの2期10年間は、それぞれの地域で目標を掲げ取り組み、地域振興に役立ったものと考えます。今年度から第3期対策として5年間実施されますが、集落それぞれの課題解決のために必要な事業と考えています。

質問 平成21年度の農業振興の成果をどう捉えているか伺います。

答弁 各種の事業を進めてきました。難しい時代ですが、充電しながら、進んでまいります。

質問 新たな特産品、商品開発が必要でないか伺います。

答弁 プチヴェール等があります。農協と相談しながら進めてまいります。

建設環境部門

質問 戸籍事務と住民基本台帳上において、奥州市の場合どのような実態になっているか伺います。また、年金はどのように扱われて

いるのか伺います。

答弁 奥州市においては、100歳以上の方が178人、うち120歳以上の方が18人、最高齢は131歳ということになっております。この方々は、戸籍上住所不記載となっており、親族等を通じて調査を継続実施しているところです。除籍の手続きにあたっては、法務省等の指導のもとに進める考えです。なお、年金については、住所が不明ですので、支給しておりません。

質問 消費者救済資金貸付制度の運用の実態について伺います。

答弁 本制度は、市民生活における多重債務の整理等、消費者救済の制度として、市と東北労働金庫が1対3で資金を預託し、岩手県消費者信用生活協同組合が融資する制度であり、貸付残高は、平成19年度末3億9000万円、平成20年度末3億3000万円、平成21年度末2億8000万円であり、年々減少してきています。また、消費生活相談件数も、平成18年911件、平成19年811件、平成20年754件、平成21年769件と、増えている状況にはありませぬ。融資枠については、労金とも相談の上、柔軟に対応してまいります。

質問 ゴミ収集にあたって、分別収集による減量化・資源ゴミのリサイクル率・集団回収の実態はどのようになっているか伺います。

答弁 平成21年度からゴミ収集の方式を統一して行っておりますが、市民1人あたり排出量が447・31グラム、リサイクル率23・13%です。環境基本計画では441グラム以下の排出量、25%以上のリサイクル率を目標としております。地球環境を守る観点から、資源としてのリサイクルの推進と、環境への負荷を減らす取り組みとして、市民の理解と協力のもとに進めたいと考えます。

質問 臭気測定等により悪臭公害の原因者に指導したとありますが、その状況について伺います。

答弁 悪臭公害については、江刺にある企業と、鳥に対する苦情があります。情報を寄せられた都度現場に向き、発生原因となることについて調査し、施設の点検等と併せ改善が必要と思われる場合は、改善指導を行っております。平成21年度の県補助により、防臭設備が増設され、改善されたと思っておりますが、今夏は、酷暑により死亡家畜が多発し、悪臭に対する苦情が倍以上も寄せられました。死後時間が経過し、傷みが

激しいことが臭気の原因であり、畜産関係機関にもお願いし、搬入あるいは引き取りを早めていただき、処理するようお願いしています。

質問 老朽化した農業集落排水施設の現状をどう捉え、改修計画はどのようになっているか伺います。

答弁 平成21年度から平成23年度までの3年間に低コスト型農業集落排水更新支援事業と、真空ポンプ方式においては早急な対応が必要であり、今年度から機能強化施設診断事業により、供用開始後7年経過した施設を対象としていますが、この2つの事業により診断・改修を進める計画にしております。

質問 小谷木橋の改修計画について伺います。

答弁 地元の整備促進期成同盟会と一緒に、運動を進めてまいりましたが、今年度県において調査費が計上されております。今後の展開としては、調査に基づき、河川管理者と協議を進め、県との大規模事業評価を経て、都市計画決定の手続きを進め、事業に着手する運びになるものです。これからも地域要望として上位にランクされるよう要請してまいります。